※※※

３月号
西東京市立上向台小学校
令和８年３月２日
http://www.nishitokyo.ed.jp/e-kamimukoudai

上向台小だより

※※

変わる道具、変わる学び～自立した学習者の育成に向けて～

校長　酒見　裕子

３学期、３年生の社会科見学に同行し、西東京市郷土資料室を訪れました。「昔の道具」の展示室に足を踏み入れたとき、私は思わず足を止めました。「火のし」や「炭火アイロン」といった歴史を感じさせる生活用品と並んで、私にとって馴染み深い**「ガラケー（折り畳み式携帯電話）」**が、ガラスケースの中に置かれていたからです。プッシュフォンや黒電話、壁掛け電話も展示されていましたが、そこにまさか「ガラケー」が並んでいるとは思いもしませんでした。

展示を見つめていると、学生時代の記憶が蘇ってきました。休み時間、校内の公衆電話に並び、数字の羅列でメッセージを送り合っていた**ポケットベル**。やがて手にした**ＰＨＳやガラケー**は、アンテナを伸ばして電波を探したり、センターに問い合わせをしてメールを待ったり……。当時はそれがコミュニケーションの最先端でした。

また、音楽を聴く道具についても、郷土資料室には蓄音機が展示されていましたが、**レコード、カセットテープ、ＣＤ**、そして**ＭＤ**へ。新しいメディアが登場するたびに「これ以上の進化はないだろう」と思ったものですが、今や物理的な形を失い、デジタルデータとして一台の**「スマートフォン」**に収まっています。

さらに、別々の道具であった電話や音楽プレーヤー、カメラ、ビデオカメラ、地図、辞書までもが手のひらサイズに集約されました。プロが使っていたような高性能なカメラや編集機能が、今は私たちの手の中にあります。

かつての最新テクノロジーが「歴史の一部」として保存されている光景に衝撃を覚えると同時に、私はある種の危機感を抱きました。**「これほどまでに技術が進化し、社会が変わったにもかかわらず、学校という場所は当時からどれほど変わっただろうか」**ということです。

現在、子どもたちの手元には一人１台のタブレット端末があります。しかし、教育の根本的な仕組み～教師が前に立ち、決まった正解を教え、子どもたちがそれを一斉に書き写して記憶するスタイル～は、レコードで音楽を聴いていた時代から驚くほど変わっていないように思います。

郷土資料室の古い道具たちは、単に形が古いだけではありません。それらは「特定の目的のために、特定の場所でしか行動できなかった時代」の象徴です。対して現代は、デバイス一つで世界中の情報にアクセスし、自ら発信できる時代です。学校が「知識の伝達」という旧来の役割に留まっていては、子どもたちが社会に出たときに直面する現実との間に、埋めがたいギャップが生じてしまいます。

今までの教育モデルを根本から見つめ直すべき時期に来ているのではないかと考え、本校では昨年度に引き続き、今年度も**「自立した学習者の育成」**をテーマに授業改善を重ねてまいりました。多機能なデバイスを「単なる遊び道具」にするか、「未来を切り拓く道具」にするかは、使う側の「自立」にかかってきます。

「自立した学習者」を育成するために、私は次のような力を大切にしたいと考えてきました。

第一に、**「問いを立て、道具を選び取る力」**です。検索すれば答えが出る時代だからこそ、「何を問うべきか」という**課題設定能力**と、目的に応じて**最適な手段を自ら選ぶ主体性**が不可欠です。

第二に、**「学び方を自らデザインする力」**です。動画や対話、インターネットなど、**自分に合った学び方を自ら見付け出す力**が、生涯学び続ける力につながるのではないかと考えます。

第三に、**「変化を恐れず、試行錯誤を楽しむ力」**です。今の道具も数年後には「昔の道具」になります。大切なのは特定の操作を覚えることではなく、**新しい状況に直面したときに「まずはやってみよう」と柔軟に立ち向かえる精神的なたくましさ**です。

学校は今、知識を詰め込む場所から**「学び方を学ぶ場所」**へと進化しようとしています。教師の役割も、唯一の正解を教える存在から、**子どもたちの探究を支える「伴走者」へと変化**しています。

御家庭でも、お子様が**自力で調べ、悩み、失敗しながら自分なりに表現しようとするプロセスを尊重**してあげてください。大人が共に学び、変化を楽しむ姿を見せることが、何よりの励みとなります。

郷土資料室にあった昔の道具からは、「変化は不可避であり、加速している」というメッセージを投げかけられているように感じました。

いつか子どもたちがタブレット端末を懐かしく振り返るとき、**「あのとき、上小で自立して学ぶ力を身に付けたから今の自分がある」**と胸を張って言えるように、私たちは情熱をもって、一人一人に伴走し続けてまいります。

人生 100 年時代！次年度も、**子どもたちが生涯学び続けることができる「自立した学習者」を育成**できるよう、教育活動を推進してまいります。

少し早いですが、今年度の本校の教育活動に際しまして、いつも温かく御理解・御協力いただきました保護者の皆様、地域の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。